

平成28年度 経営発達支援計画 実績報告書

＜美幌商工会議所 経営発達支援事業の目標＞

地域における小規模事業者の総合的な経営支援機関として、各支援機関等と連携して支援ノウハウの共有を図り、経営計画策定への支援及び実行に対して伴走型の支援を実施し、ビジネスモデルを構築しながら小規模事業者の持続的発展に向けた支援を実行します。

また、地域経済の活性化と雇用の創出を図るために、創業や第二創業、新分野進出者に対して、総合支援窓口としての機能を果たし、地域の企業創出及び、事業承継に対する解決を図り小規模事業者の持続的発展に寄与し、地域経済の底上げを目標とします。

1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】

日本商工会議所及び日本政策金融公庫等が行う経済動向調査や当所の景気動向調査結果は役員議員や地元新聞に掲載して周知するのみとなっており巡回指導時や小規模事業者の事業計画策定など持続的な発展を目指すべく情報として十分に活かしきれていない現状です。

これからは、小規模事業者の持続的発展を目指していく上での情報として、当所が実施している景気動向調査の回収率を高め、業種別の景況感、動向や見通しを把握し、窓口・巡回指導により小規模事業者の経営計画作成の支援及び経営支援に資する商工会議所各事業に反映させていきます。

- (1) 会員事業者に対する独自調査の実施
- (2) 地域経済指標の分析

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①景気動向調査 回収率向上	80%	35%
②景気動向調査 聞き取り調査	20件	0件
③計画実行フォローアップ	5件	13件
④一次産業動向等の情報交換会	1回	1回

(補足事項) ④H29.2.1 オホーツク商工会議所経営指導員連絡協議会にて(株)日本政策金融公庫
北見支店農林水産事業部と情報交換を実施

2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

これまで経営状況の分析は、小規模事業者経営改善資金（マル経資金）の推薦時や小規模事業者持続化補助金申請時に経営改善を目的として実施するに留まっておりましたが、小規模事業者が持続的に発展していくために、個別に経営課題の抽出やSWOT分析をして、その内容を事業計画策定・実行に活用していくことが重要であります。

本計画では、各種経営セミナー等の開催や経営指導員等による巡回指導等を通して経営状況の

分析をする小規模事業者を掘り起し、経営状況の分析をしていきます。その成果を事業計画策定に活用して小規模事業者の持続的発展に向けた伴走型支援を実施していきます。

- (1) 経営分析する小規模事業者の掘り起し
- (2) 経営指導員等や専門家と連携した経営分析の実施

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①巡回訪問件数	160件	171件
②各種経営セミナー等開催回数	2回	9回
③各種経営セミナー等参加人数	15人	107人
④経営分析数	10件	36件

(補足事項) ②WEBを活用した集客・売上向上セミナー (2回 20名)

経営に活かす財務セミナー (23名) 経営に活かす財務分析セミナー (14名)

もっと儲けるための経営分析セミナー (14名) 販路開拓セミナー (8名)

経営に活かす事業計画策定セミナー (2回 16名)

売上向上!実践WEB活用術セミナー (12名)

④内訳: 小規模事業者持続化補助金 16件、セミナー出席 17件、マル経融資申込 3件

3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】

経営指導員等が行う経営基盤の拡充や経営革新に資する各種制度の利用と小規模持続化補助金に対して窓口において相談に来た小規模事業者への事業計画策定支援に止まっていました。

今後は、地域経済の動向、経営状況の分析を踏まえた事業計画策定に関するセミナー等を開催し、事業計画策定を目指す小規模事業者の掘り起しを行います。

あわせて、一日公庫相談や専門家派遣による個別相談会の開催や巡回指導による事業計画策定に向けたフォローアップを図っていきます。

- (1) 事業計画策定支援に関するセミナーの開催
- (2) 事業計画作成策定に関する相談と資金調達支援の実施
- (3) 各種補助金の活用による事業計画策定支援
- (4) 創業等における事業計画策定支援と専門家派遣による支援体制

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①一日公庫相談会	1回	1回
②セミナー・相談会開催回数	2回	12回
③事業計画策定事業者数	5件	14件

(補足事項) ①一日公庫相談会 4社出席 ②セミナー開催回数 9回、個別相談会「経営分析に関する

個別相談 (5社)」「販路開拓に関する個別相談 (3社)」「WEB活用に関する個別相談 (3社)」

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】

事業計画策定後の実行支援に関する巡回指導等がほぼ行われていない体制を改め、事業計画策定後、2カ月に一度程度の巡回訪問を実施し、進捗状況の確認や必要な指導・助言などをしてフォローアップをしていきます。また専門的な分野については、新たに北海道よろず支援拠点や中小機構北海道本部と連携して専門家を招聘し、事業計画実行に向けた課題を明確にし、事業計画が実行されるバックアップ体制を構築していきます。

- (1) 事業計画実施に伴う巡回指導及び各支援機関による専門家活用
- (2) 事業計画実施に伴う施策・支援等の周知
- (3) 情報交換会の開催

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①フォローアップ件数	30件	61件
②ビジネスモデル構築事業者数	—	—

(補足事項) ②ビジネスモデル構築事業者目標はH30年度1件、H31年度2件、H32年度2件

5. 需要動向調査に関すること【指針③】

需要動向を把握するために契約している日経テレコム調査システム等を活用し、小規模事業者の事業計画に沿った需要動向を把握し、事業計画策定への情報として提供する。また、(株)日本経済研究所や北海道よろず支援拠点と連携し、想定する市場の需要動向の情報提供と共に需要動向にあった商品開発及び販路開拓をするためのブラッシュアップ支援を実施していきます。

- (1) 最新の消費・トレンド動向等の把握による情報提供
- (2) 需要動向を踏まえた専門家によるブラッシュアップ支援

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①需要動向調査数	5件	16件
②専門家需要動向支援数	1回	4回

(補足事項) ①事業計画策定における調査15件、販路開拓支援調査1件

②専門家需要動向支援、円館工芸舎1回、(株)米夢館2回、おいで家具1回

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】

当地域における一次産品を活用した新商品開発や全国展開に向けた販路拡大においては、日本商工会議所地域力活用新事業∞全国展開プロジェクトを活用し当所が支援・実施して首都圏等へ販路を拡大したビジネスモデルを構築しました。

小規模事業者の販路開拓においては、そのノウハウを最大限に活かし、商談シートの作成や催

事における商談のポイントなど、きめ細かい指導・助言を実施します。また、催事に出展の際には、経営指導員等も可能な限り随行し、販路開拓支援を実施します。

- (1) 新商品等の開発及びブラッシュアップ支援の実施
- (2) 商談会・催事等への出店支援と商談シート作成支援
- (3) 情報発信強化とプレス発表会の開催

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①専門家招聘回数	2回	1回
②展示会・商談会参加回数	1回	1回
③展示会等出展者支援者数	1社	2社

(補足事項) ①専門家招聘H28.12.19 (株)バイヤーズ・ガイド 発行編集人 永瀬正彦氏

②第21回グルメ&ダイニングスタイルショー春2017出展 (H29.2.8~10 東京ビックサイト)

③出展者支援先：株式会社米夢館 (鳥里4)、円館工芸舎 (日の出1)

7. 地域経済の活性化に資する取組

当地域は、人口減少に伴う小規模事業者数の減少や、隣接している中核都市への消費者流出といった問題に対して、平成21年度より日本商工会議所地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト等を活用し、全国展開する商品開発等を行ってきたものの、上記、諸問題に対応する有効な手段とまで至っていない現状です。

今後は、小規模事業者の持続的発展を促進する、域外からの資金流入による域内経済の活性化につながる事業を、関係機関と連携を密にして当商工会議所が中心となって取組んでいきます。

(1) 通過型観光客をターゲットにした滞在型観光開発

○美幌ニューツーリズム開発委員会において実施

①委員会・作業部会の開催

委員会 4回 (6月14日・10月6日・11月30日・2月21日)

作業部会 8回 (6月15日・7月5日・7月11日・8月9日・9月1日・10月5日
12月22日・1月11日)

②モニター事業の実施

・第1回 アウトドアフィットネス 美幌町 (H28.9.11)

・小惑星ハンター円館氏と美幌峠でパノラマ星空観測会 (H28.12.13)

・第2回 アウトドアフィットネス 美幌町 (H29.1.29)

③美ほろレターズプロジェクト・パンフレット試作開発

④先進事例調査

・アウトドアフィットネス施設調査 (H28.9.23)

・ツーリズムEXPOジャパン2016視察ツアー (H28.9.24)

(2) 美幌産豚肉のブランド化による活性化事業

○美幌豚肉クラスター協議会検討会の開催

(第1回) 平成28年10月12日(水) 18:00~20:30

- ・高収益・高品質に向けた(有)竹下畜産の飼料現状報告及び意見交換
- ・本町の農産物とのコラボ料理の開発の現状について
- ・美幌産豚肉のマンガ化に向けた現状報告
- ・今後の美幌豚肉クラスター事業についての意見交換

(第2回) 平成29年2月16日(木) 19:00~20:50

- ・高収益・高品質に向けた(有)竹下畜産の飼料現状報告及び意見交換
- ・本町の農産物とのコラボ料理の開発について
- ・美幌産豚肉に対する情報発信について
- ・今後の美幌豚肉クラスター事業についての意見交換

(3) 商店街にぎわいソフト事業の展開

○得する街のゼミナールの開催

日 時：平成28年10月1日(土)～10月31日(月)

参加企業：16社 開講数：21講座 参加人数：129名

8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

他の支援機関との支援ノウハウ等の情報交換に関する課題は、これまで経営改善普及事業等で関係事案が生じた際に、経営指導員が連携先を選択し、連携を図る状況下のため、小規模事業者の課題解決策に関する支援ノウハウ等の情報交換は行われていませんでした。

今後は、次により経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のため、他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換を図ります。

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①(株)日本政策金融公庫北見支店国民生活事業との情報交換会等	1回	3回
②中小機構北海道本部との情報交換	—	1回
③北海道経済産業局知財総合支援窓口との情報交換	—	0回
④6次産業化などの成功事例やビジネスモデルなどの情報交換	—	1回

(補足事項) ①小規模事業者経営改善資金貸付推薦団体連絡協議会(2回)、一日公庫相談会における情報交換会(1回)

②中小機構北海道本部の専門家による事業承継セミナーの開催(9社出席)

③④H29.2.1オホーツク商工会議所経営指導員連絡協議会にて(株)日本政策金融公庫北見支店農林水産事業部と情報交換を実施

9. 経営指導員等の資質向上等に関すること

経営指導員等の資質向上については、北海道商工会議所連合会の定める研修体系要綱による中小企業大学校における研修を年1回受講していますが、個々の情報収集の域に止まり研修内容の共有も行われず、地域経済の活性化や小規模事業者への支援に繋がっていません。また、記帳、税務、労働に関する指導スキルはあるものの、事業計画策定支援や販路開拓など小規模事業者が抱える課題に対して、支援できるスキルの習得と支援体制の整備が急務となっています。

今後は、以下により小規模事業者の持続的発展に資する支援を一貫して実行するため、上記支援に必要な研修の受講とOJTによる支援ノウハウの共有を図り、意識改革も含め支援体制の整備をしていきます。

支援内容	28年度 目標	28年度 実績
①研修会等の参加による資質向上	2回	5回
②職員間の支援ノウハウの共有化による資質向上と意識改革	12回	0回
③専門家や研修会・セミナーへの同席等による資質向上	—	13回

(補足事項) ①深田 裕二「新規創業・開業支援の進め方」「事業承継セミナー」

伊藤 健一「経営発達支援研修」「個者支援研修」「経営分析力向上特別研修」

②復命等において研修内容、セミナー・個別相談内容等を共有

平成28年度経営発達支援計画 事業評価報告書

平成29年6月19日（月）午前10時 美幌経済センター2階会議室

評価員 美幌商工会議所 副会頭 中村 仁郎 氏
美幌町経済部 部長 矢萩 浩 氏
網走信金美幌支店 支店長 佐々木 天洋 氏

事務局 横山専務理事 伊藤指導課長

1. 地域の経済動向調査に関すること（評価C）

- ・地域経済の動向が本事業のポイントとなる。回収率の向上に向けて調査趣旨を調査先事業所に定期的にお知らせするなどして協力を仰ぐようにしてはどうか。また、調査結果を調査先にフィードバックするか、総会においても協力を仰ぐなどすると良い。
- ・職員の人数にも限りがあるので窓口相談にお越しいただいた小規模事業者に聞き取り調査を実施するようにしたら良い。1件でも実施すること。
- ・一次産業の動向調査は、美幌町内の農機具取扱店等にヒアリングすると効果的である。こうした調査を商工会議所が実施することに大変に意義がある。

2. 経営状況の分析に関すること（評価A）

- ・経営状況の分析は、事業承継においても重要な分析となるので事業承継に関する相談時においても実施してほしい。
- ・セミナーについては、商店向けや若手経営者向けに絞り込んだ内容で開催してみたいかどうか。

3. 事業計画策定支援に関すること（評価A）

- ・事業計画策定事業者数が目標より大きく支援できている。今後の実行支援が大切になる。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること（評価A）

- ・実施支援には事業承継の意味も含まれるので、ぜひ、支援を継続してほしい。
- ・平成30年度に向けてビジネスモデルを構築し、多くの小規模事業者のやる気を喚起して、もらいたい。

5. 需要動向調査に関すること（評価A）

- ・需要の動向を調査することは大切である。引きつづき、需要動向に関する支援を継続してほしい。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること（評価A）

- ・商業も儲かる経営を目指してほしい。こうした需要開拓支援はとても有効だと思う。
- ・売れる商品、売上増を目指していく上で、バイヤーからアドバイスをもらえる機会を増やしてほしい。

7. 地域経済の活性化に資する取組（評価A）

- ・美幌ニューツーリズム開発委員会の事業展開は目を見張るものがある。観光は裾野が広い。商業のボトムアップにつながる。こうした事業の積み重ねで交流人口の増加を図ってほしい。
- ・まちゼミも来店客のキッカケづくりとしては良いと思われる。今後、参加人数を増やしてほしい。

8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること（評価A）

- ・中小機構北海道と連携を強化して、事業承継に関する相談会・セミナーを定期的で開催するなど、美幌町の地域経済において大きな課題である事業承継にもっと取り組んでもらいたい。

9. 経営指導員等の資質向上等に関すること（評価A）

- ・職員の人数を考慮すると限られた時間の中で支援ノウハウを習得するには、専門家によるセミナーや個別相談における職員の同席はとても有効である。ぜひ、継続して欲しい。
- ・限られた職員数のため、職員間の支援ノウハウの共有化による資質向上は難しい。他の会議所の経営指導員等と枠を広げて、支援ノウハウの向上を図るようにしたら良いと思う。

※事業評価の実施について

- ・こうした事業評価を数値化して実施することは、とても有効である。

項目	総評価
1. 地域の経済動向調査に関すること	C
2. 経営状況の分析に関すること	A
3. 事業計画策定支援に関すること	A
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること	A
5. 需要動向調査に関すること	A
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	A
7. 地域経済の活性化に資する取組	A
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	A
9. 経営指導員等の資質向上等に関すること	A

< 4段評価の目安 >

- A : 十分達成している B : 概ね達成している C : 半分程度しか達成できていない
D : ほとんど達成できていない